

国文学会機関紙総目次(戦前)

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

日本文学誌要

(巻 / Volume)

16

(開始ページ / Start Page)

115

(終了ページ / End Page)

118

(発行年 / Year)

1966-11-26

国文学会機関誌総目次 (戦前)

日本文学の再認識 第1輯 一九三三(昭和八)年三月発行

国文学会研究室編 代表 小山龍之輔 (以下同じ)

巻頭言

大伴旅人と上代日本精神	小山龍之輔	1
すみれ・榛 その他	土屋 文明	7
日本語の位置について	石黒 魯平	22
上代国語の未来辞	小林 好日	12
芭蕉翁	大師子吼林	8
楞堂と暁台と一茶	宇和川匠助	27
蒼虬翁の晩年及追善集	青山善太郎	20
国文学会成立過程	(編集担当者)	4

法政大学国文学会会報 創刊号 一九三二(昭和七)年七月発行

会報発行に際して	小山龍之輔	1
国文学会会則・学会報告・学会名簿	その他	7

法政大学国文学会会報 第二号 (未見)

法政大学文学部国文学会会報 第三号 一九三三年八月発行

記憶型の注釈的傾向	小山龍之輔	1
芭蕉の芸術的態度	青山善太郎	1
子規の蕪村論	宇和川匠助	1
浄瑠璃の鑑賞 —— 津太夫と古靱太夫 ——	水庭 耕一	2
郷土の方言二・三	白石 昇	1
西鶴とモオパスサンの肉慾観	麻生 恂一	2
学会彙報・学会名簿		3

法政大学文学部国文学誌要 第四号 一九三三年一二月発行

先づ生きたる人間を読め	小山龍之輔	1
西鶴断想	近藤 忠義	1
古事記・万葉集に於ける生活の指導性	宇和川匠助	3
大鏡伝本管見	近藤 百之	2
国文学会会報		1

法政大学国文学誌要 第五号 一九三四年(昭和九)六月発行

西山宗因の「讃岐下り水くらげ」	山本善太郎	4
万葉集東国歌の数字的考察	大西 一男	6
篋積豊後風土記に就て	白石 昇	2
長谷川二葉亭の業績	辻 一喜	4
(筆随) 霊の散歩	小山龍之輔	1
国文学会会報・学会名簿・編集後記		9

法政大学国文学誌要 第六号 一九三四年七月発行

国文学会編集部編 代表 近藤忠義(以下同じ)

仮名草紙の時代とその世相

近藤 忠義 4

浪漫主義発生の社会的基礎

熊谷 孝 5

——浪漫主義研究ノートからの覚書——

二葉亭の『文学に対する懷疑』

辻 一喜 7

近松と藤十郎と

鈴木福五郎 3

——歌舞伎精神上の革命的運動に就いて——

国文学会会報・編集後記

2

国文学誌要 第七号

一九三四年一〇月発行

万葉集の清亮性(1)——きよ・さやの別——

増永 公政 3

和泉式部試論

宇和川匠助 7

浮世草子の一面——世相と文学との交渉——

近藤 忠義 6

「浮雲」加筆に就ての一考察

辻 一喜 5

——表現苦時代の二葉亭のために——

美妙の文鳥

片岡 良一 2

彙報・編集後記

2

国文学誌要 第二卷 第八号

一九三四年一二月発行

万葉集の清亮性(2)——きよ・さやの対象其他——

増永 公政 19

打聞集に於ける語の釈義一、二

岩淵悦太郎 8

「永代蔵」小論

熊谷 孝 9

静嘉堂所蔵凶書と閲覧者の傾向

長澤規矩也 4

梅幸とお夏

ディレクタンティズムの横溢

彙報・編集後記

2

国文学誌要 第二卷 第九号

一九三五(昭和一〇)年二月発行

竹取物語に就いて

近藤 忠義 4

「五人女」に関する断片的ノート

熊谷 孝 8

泉鏡花の「文明批評」私観

辻 一喜 14

——鏡花のより芸術的なものに就いて——

彙報・国文学誌要第二卷総目次・編集後記

4

法政大学国文学会会報 (第二卷 第九号 付録)

(臨時特集号)

国文学会会則・国文学研究室規定

その他

6

国文学誌要 第三卷 第一号

第三卷 第一号

一九三五年六月発行

古今集について

近藤 忠義 13

今昔物語と冥報記

岩淵悦太郎 16

世阿弥に於ける「物真似」の位置

西尾 実 8

野ざらし紀行の研究

山本善太郎 6

独歩——「運命論者」覚書——

熊谷 孝 6

彙報・編集後記

3

法政大学国文学会会報 (第三卷 第一号 付録)

学会名簿・雑報

6

国文学誌要 第三卷第二号 一九三五年十一月発行

「怪談全書」の著者について 長澤規矩也 3

大下馬についての走り書 熊谷 孝 8

大下馬とところどころ 近藤 忠義 4

『元禄上方歌舞伎』覚え書 鈴木福五郎 10

——近松脚本を中心としたる一考察—— 辻 一喜 20

「文章解体期」の文学 新感覚派文学運動に就いて—— 鈴木福五郎 4

「雲中の腕押」ノートより 辻 一喜 1

——西鶴のレアリズムに就いての一考察—— 辻 一喜 1

「夜明け前」について 辻 一喜 1

彙報・編集後記 3

国文学誌要 第三卷第三号 一九三六(昭和一一)年一月発行

連歌の発展につきて 原田 幸衛 6

芭蕉の言葉 ——季題論への一つの暗示—— 近藤 忠義 6

「元禄江戸歌舞伎」の覚え書 鈴木福五郎 6

——荒事を中心としたる一考察—— 杉浦 実 15

江戸「世話狂言」の展開への一瞥 小林 謙一 5

兼好の美意識の中より ——人事美を主として—— 2

彙報・編集後記

国文学誌要 第四卷第一号 一九三六年六月発行

「東海道四谷怪談」考 杉浦 実 8

横光利一論覚え書 辻 一喜 8

——初期の作品二、三を中心として——

箔のついてきた西鶴論 熊谷 孝 9

(新刊紹介) 青木健作氏著「新講俳諧史」 山本善太郎 3

彙報・編集後記 3

法政大学国文学会会報 (第四卷第一号 付録)

編集部小史・学会名簿 10

国文学誌要 第四卷第二号 一九三六年七月発行

国文学と鑑賞主義 近藤 忠義 6

資料主義・鑑賞主義・その他 熊谷 孝 10

——最近発表された二、三の作品論に關聯して——

松永貞徳の俳諧観 山本善太郎 7

「気風」の問題 ——三都の「気風」とそれらを規定する 鈴木福五郎 7

歴史的・社会的条件について —— 岩淵悦太郎 5

近世に於ける波行子音の変遷に就いて —— 西尾 実 3

(随筆) 鐘と刀 4

彙報・編集後記

国文学誌要 第四卷第三号 一九三六年十一月発行

短歌の「永続性」 近藤 忠義 16

横光利一と「蠅」の世界 辻 一喜 11

「ユシヤマイン記」をめぐるての感想

辻 一喜 9

——現代文学と国文学への一瞥——

熊谷 孝 14

(研究時評) 時評的問題一二

——吉田精一・片岡良一両氏の所論に關聯して——

2

彙報・編集後記

法政大学国文学会会報 (第五卷 第一号 付録)

10

学会名簿 その他

(一九三七(昭和一二)年六月発行。ただし、第五卷第一号は発行されず。)



「法政大学国文学誌要」 第四号

本号執筆者紹介

益田 勝美 文学部助教授

阪下 圭八 文学部講師 東京経済大学助教授
37年3月博士課程終了

滝瀬 爵克 潤徳女子高校教諭 24年3月卒業

木藤 才蔵 文学部講師 日本女子大学教授

杉本圭三郎 文学部専任講師 37年3月博士課程終了

岩崎 武夫 法政女子高講師 39年3月修士課程卒業

下沢 勝井 33年3月修士課程卒業

高崎 隆治 法政一工高教諭 23年3月卒業

鈴木 敬司 博士課程在学中

任 展慧 40年3月修士課程卒業

佐藤 孝 第一教養部教授

島本 昌一 文学部講師 41年3月博士課程終了